

# 〔一般社団法人 東京臨床糖尿病医会 第173回例会〕

- 開催日時:2022年6月11日(土)午後15時30分～午後19時05分
- 開催方法:ハイブリッド開催(会場・発信)ビジョンセンター永田町  
住所:東京都千代田区永田町 1-11-28 電話03-6206-1118(直通)
- 交通機関:地下鉄「永田町」駅(有楽町線・半蔵門線・南北線)3番出口より徒歩0分

## ●テーマ:進歩した糖尿病治療～新薬の使い方

◆開催あいさつ 理事長(会長):本田正志 (15:30～15:35=5分)

◆司会:伊藤景樹(伊藤内科小児科クリニック 院長)

第1講演『ミトコンドリア由来活性酸素種による  
インスリン分泌障害機構とイメグリミンによる介入効果』 (15:35～16:20=45分)

【要旨】膵β細胞で高血糖によりミトコンドリア由来活性酸素種(ROS)産生が増加し、増加したROSがインスリン分泌を障害することを示す。またミトコンドリア変異患者でROS産生を抑制するイメグリミンが効果的に作用することを示す。

講師:堺弘治先生(東十条さかい糖尿病・内科クリニック 院長)

質疑応答(16:20～16:30=10分)

第2講演『経口GLP-1受容体作動薬による新たな2型糖尿病治療』 (16:30～17:15=45分)  
～当院における100例の使用経験を踏まえて～

【要旨】従来のGLP-1注射剤と比較すると注射指導の手間が無くなり、患者からも受け入れやすくなった反面、胃から吸収させ効果を出すためには服薬指導が必須である。当院での使用経験を有効性・安全性を含め紹介する。

講師:鈴木與善先生(かぶらきクリニック 院長)

質疑応答(17:15～17:25=10分)

.....コーヒーブレイク(17:25～17:35=10分).....

第3講演『GLP-1受容体作動薬による糖尿病治療の新展開』 (17:35～18:45=70分)

【要旨】糖尿病治療薬は新しい製剤が次々に登場しており、その製剤数の多さから使い分けも煩雑になっております。最近では、GLP-1受容体作動薬も注射薬に加え経口薬も登場しております。そこで注射薬と経口薬の各々のメリット等についてお示しします。

講師:森豊先生(東京慈恵会医科大学 客員教授)

質疑応答(18:45～18:55=10分)

◆次回例会の案内(174回特別例会)のお知らせ 本田正志先生(西川クリニック) (18:55～19:00:05分)

◆2021年度「会計報告」会計担当:伊藤景樹先生(伊藤内科小児科クリニック 院長) (19:00～19:05:05分)

共催:一般社団法人 東京臨床糖尿病医会・ノボ ノルディスク ファーマ(株)  
後援:一般社団法人 日本糖尿病学会関東甲信越支部